



りぶ・らぶ・あにまるず ICAC KOBE 2014

第3回神戸アニマルケア国際会議 2014

一人と動物の未来の為に

The 3rd International Conference on Animal Care in KOBE 2014

— For the Future of People and Other Animals

実施報告書



開催日：2014年7月19日(土)・20日(日)

開催場所：神戸ポートピアホテル(国際会議/レセプション)



りぶ・らぶ・あにまるず ICAC KOBE 2014

第3回神戸アニマルケア国際会議 2014

— 人と動物の未来の為に —

The 3rd International Conference on Animal Care in KOBE 2014

— For the Future of People and Other Animals

● 目 的

この会議は、阪神・淡路大震災15周年を契機に、全ての動物を対象とし、そのより良いケアや生息環境の保全を目指すための情報交換・新技術の創出等を議論することにより、人を含む世界中の動物の福祉を向上させ、以って、我々人間が果たしうる責任を広く社会に示し、幸福な人と動物との共生を更に前進させることを目的とする。

● 開 催 趣 旨



「お互いの存在に『感謝』し、生ある限りは『幸せ』であることが、いのちに対する『責任』である。」

我々人間が、全てのいのちに対して果たしうる責任をこのように位置付けたこの会議では、阪神・淡路大震災の経験を通じての第1回、東日本大震災と向き合った第2回と、『人と動物の未来の為に』獣医療、緊急災害時の対応、共通感染症、食の安心・安全、動物の社会的在り方、人と動物の絆等、各専門分野からの議論を続けて参りました。

そこで、副題を『一人と動物の未来の為に一』とし、各専門の分野から、現時点で最も求められる有用な議論を選び、深めて頂くことと致しました。人も動物も幸せに居られる未来の為に、我々人間に出来る努力を明らかにし、人と動物、そして生態系の心身共に健康な未来実現に寄与します。



事業の概要

- **名 称** りぶ・らぶ・あにまるず 第3回 神戸アニマルケア国際会議 – ICAC KOBE 2014
- **開 催 日** 2014年7月19日（土）／20日（日）
- **開 催 場 所** 神戸ポートピアホテル（国際会議／レセプション）
- **テ ー マ** 人と動物の未来の為に
- **主 催** 公益社団法人 日本獣医師会／公益社団法人 Knots
- **共 催** 公益社団法人 日本医師会／一般社団法人 兵庫県獣医師会／公益社団法人 神戸市獣医師会
- **シンポジウム
主 催 団 体** 人と動物の共通感染症研究会／公益社団法人日本動物病院協会／公益社団法人日本動物福祉協会／動物との共生を考える連絡会／日本野生動物医学学会／日本クマネットワーク／応用動物行動学会／公益社団法人日本獣医師会／公益社団法人日本獣医学学会／奈良県うだ・アニマルパーク振興室／公益社団法人 Knots
- **特 別 協 賛** **ネスレ日本株式会社**  **ネスレピュリナ ペットケア**
- **協 賛**  日本ヒルズ・コルゲート株式会社
- **シンポジウム
支援企業・団体** ロイヤルカナンジャパン／ネスレ日本株式会社 ネスレ ピュリナ ペットケア／DS ファーマアニマルヘルス株式会社／マース ジャパン リミテッド
- **会議支援企業及び団体** アメリカペットフード協会／六甲山カンツリーハウス／アサヒグループホールディングス株式会社
- **会議サポーター** 個人でのご寄付
- **助 成** 公益財団法人 中内力コンベンション振興財団
- **特 別 協 力** 一般社団法人ペットフード協会／北海道大学大学院獣医学研究科／帯広畜産大学獣医学課程／岩手大学農学部共同獣医学科／東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻／東京農工大学農学部共同獣医学科／岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科／鳥取大学農学部共同獣医学科／山口大学共同獣医学部獣医学科／宮崎大学農学部獣医学科／鹿児島大学共同獣医学部獣医学科／大阪府立大学大学院生命環境科学研究科獣医学専攻／酪農学園大学獣医学部／北里大学獣医学部獣医学科／日本大学生物資源科学部獣医学科／麻布大学獣医学部／日本獣医生命科学大学獣医学部／帝京科学大学アニマルサイエンス学科
- **協 力** 長崎大学熱帯医学研究所／日本寄生虫学会／日本衛生動物学会／日本熱帯医学会／NPO法人野生動物救護獣医師協会／公益社団法人日本動物園水族館協会／兵庫県動物愛護センター／ニホンジカ有効活用研究会／アニマテック・オオシマ／優良家庭犬普及協会／一般社団法人日本ペット用品工業会／一般社団法人エゾシカ協会／日本動物病院会／一般社団法人日本 SPF 豚協会／緊急災害時動物救援本部／ちよだニャンとなる会／一般社団法人日本障害者乗馬協会／ヒトと動物の関係学会／一般社団法人日本動物看護職協会／ペットとの共生推進協議会／一般社団法人ジャパンケネルクラブ／日本獣医学生協会 (JAVS)
- **後 援** 農林水産省／環境省／厚生労働省／文部科学省／兵庫県／神戸市／兵庫県教育委員会／神戸市教育委員会／神戸市動物愛護協会／一般社団法人兵庫県医師会／一般社団法人神戸市医師会／公益財団法人日本動物愛護協会／公益社団法人日本愛玩動物協会／一般財団法人 J-HANBS／駐大阪・神戸アメリカ合衆国総領事館 関西アメリカンセンター
- **対 象** 動物関連事業従事者／公衆衛生関係者／学生／一般
- **アドバイザー** 植村 興氏（四條畷学園大学 教授）
笹井 和美氏（公立大学法人 大阪府立大学 獣医学類 学類長 教授）
柴内 裕子氏（公益社団法人 日本動物病院協会 顧問 / 赤坂動物病院 院長）
玉井 公宏氏（公益社団法人 和歌山県獣医師会 会長）
山口千津子氏（公益社団法人 日本動物福祉協会・獣医師調査員）
山崎 恵子氏（ペット研究会「互」主宰）
- **事 務 局** 公益社団法人 Knots

事業の内容

国際会議

◎基調講演

「インフルエンザウイルスの生態：鳥インフルエンザとパンデミックインフルエンザ対策のために」

喜田 宏氏

(日本学士院 会員/北海道大学 特別教授/北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター 統括/OIE世界鳥インフルエンザレファレンスラボラトリー長/WHO指定人獣共通感染症対策研究協力センター長)

◎シンポジウム

- ・シンポジウム I 「身近に存在する人と動物の共通感染症」
- ・シンポジウム II 「動物達が開く心の扉 ～CAPP活動15,000回を迎えて」
- ・シンポジウム III 「暴力の連鎖：人間に対する暴力と動物虐待の関連性」
- ・シンポジウム IV 「ずっと一緒に居られる」社会へ -飼い主を支えるシステムが実現する豊かな社会」
- ・シンポジウム V 「One World, One Health ～今、北極で何が起きているのか？～」
- ・シンポジウム VI 「畜産現場における野生動物被害」
- ・シンポジウム VII 「高度動物医療と終末期動物医療（安楽死処置を含む：平穏死について）」の現状
- ・シンポジウム VIII 「畜産Now! -食の安全と動物福祉」
- ・シンポジウム IX 「奈良県のいのちの教育 -子ども達へ「いのち」を伝える試み」

*各シンポジウムは、各専門分野の団体にてご主催頂き、内容も一任致します。

*会議記録集制作：会議終了後、基調講演及びシンポジウムの記録を日英両文で作成し、Knots ウェブサイトで無償提供。
英国NPO CABI (農学系データベース) にも掲載予定。

■ **ポスターセッション** 大学院生向けにポスターセッションを開催

■ **レセプション** 会費制にて実施

阪神・淡路大震災から 15 年目となる 2009 年に産声をあげた「りぶ・らぶ・あにまらず 神戸アニマルケア国際会議 (ICAC KOBE)」の第 3 回が、去る 7 月 19、20 日の 2 日間にわたって神戸ポートピアホテルで開催されました。2年前の第 2 回のときから副題を「人と動物の未来の為に」として掲げ、我々人間が地球上に生きる全ての生き物のために果たすべき役割を明らかにし、人と動物が寄り添い合って生きることができる未来の実現に向けて、各分野の専門家による議論が行われています。我々が生きる社会は、パソコンや携帯電話の普及、そしてスマートフォンなどの急速な技術発展によって、より多くの情報をより早く手にすることが可能になりました。しかしその反面、日本における自殺者や孤独死をする高齢者の数は、逆に増え続けています。開会式のご挨拶では、阪神・淡路大震災の被災者が、5 年間で 200 名、10 年間で 500 名もの人が孤独死をしており、その中に動物を飼っていた人は一人もいなかったというお話がありました。

そして、昨年、2013 年には台湾で 52 年ぶりに野生のイタチアナグマの狂犬病が発生し、近隣のアジア諸国に衝撃を与えました。日本では、1956 年以降、狂犬病の発生は確認されていませんが、人獣共通の感染症が身近なことであるのを思い起こさせる出来事となりました。

また、「これまでに経験したことのないような…」という言葉が頻繁にテレビや新聞で使われるほど、予想外の災害に見舞われる危険性が高くなっています。現代社会は、技術の進歩とは裏腹に、生きることが以前よりも困難な時代に差し掛かっているのかもしれない。

そうした我々人間の心の不安を癒してくれる存在が、犬や猫などの伴侶動物であることは疑う余地もありません。しかし、不安定な景気や加速する高齢化社会の中で、「最後まで責任を持って飼うことができるのだろうか」「万が一、飼い主である自分の方が先に死んでしまった場合は、伴侶動物はどうなるのだろうか」といった不安から、伴侶動物と共に暮らす世帯が急速に減少しています。また、人間の営みは伴侶動物以外にも様々な動物との関わりの中で成り立っていますが、「安さだけを追求した食の安全は確保されているのだろうか」「外国からの感染症対策はどうなっているのだろうか」「野生動物による農作物の被害状況は…」など、多くの不安要素は未だ解決されないままです。

この ICAC KOBE では、特定の専門家の分野であると思われがちな、様々な人と動物との関わりを広く一般市民に告知することによって、地球上に生きる全ての生き物と人間が関わり合って生きているということを発信し、共に未来を考えることを目的として開催されています。

【開会式】

この会議が発足した切っ掛けとなった阪神・淡路大震災では、多くの動物たちが被災すると共に、仮設住宅などに入らず、飼い主と離ればなれにならなければならなかったという苦い経験があります。そうした教訓や被災地での様々な思いを忘れないためにも、ICAC KOBEの開会式では、毎回、震災当時の映像を上映し、災害で犠牲になった多くの命に対して黙祷を捧げています。

オープニングでは、主催団体の公益社団法人日本獣医師会会長・藏内勇夫氏、共催団体の公益社団法人神戸市獣医師会会長・中島克元氏、そして特別協賛のネスレ日本株式会社 ネスレピュリナペットケアのカンパニープレジデント・阿部文彦氏にご挨拶を頂き、共催団体の公益社団法人 日本医師会会長・横倉義武氏の祝電をご紹介頂きました。

ご挨拶の中で、「いのち」に対する我々の責任の重さと、人にとって一体何が本当に大切なのかということをお話頂き、また、単なる少子高齢化社会ではなく、昨年、一世帯当たりの人口が二人を下回ったという超高齢化社会に於ける、人と動物との関わりの大切さがより求められているという話が心に残りました。

引き続き、ICAC KOBE開催についての指針を示して下さっているICAC KOBE会議アドバイザーの紹介と、主催団体・公益社団法人 Knotsの運営に貴重なアドバイスをくださっているKnotsアドバイザーボードメンバーの紹介が行われました。



▲ 続々と訪れる来場者



▲ 受付の様子



▲ 満席となった会場



▲ 藏内勇夫氏



▲ 阪神・淡路大震災のビデオ上映



▲ 黙祷を捧げます



▲ 中島克元氏



▲ 阿部文彦氏

【基調講演】

ICAC KOBE 2014のオープニングを飾るのは、インフルエンザの疫学研究を地球規模で行い、世界のの高病原性鳥インフルエンザとパンデミックインフルエンザ対策や人獣共通感染症克服のための広範な研究を展開しておられる喜田宏先生の基調講演です。開催前から、地元のメディアに取り上げられたこともあり、用意した席が満席となるほどの来場者があり、会場は初日から熱気に包まれていました。



▲ 喜田 宏氏

「少し難しい部分もあるかもしれませんが、睡魔が襲ったら安らかに…」と、喜田氏特有の冗談を交えながらの講演で、あっという間に1時間半が経過しました。

現在、厚生労働省や日本のメディアで使用されている「新型インフルエンザ」という言葉や、「パンデミック」という言葉の使われ方などには大きな誤解があり、感染症についての基本的な認識そのものが間違っているという解説から始まり、インフルエンザが拡大する過程で重要な鍵を握っているカモの生態を調べるため、北極圏に渡って凍土の中で冷凍保存されているフンの調査を行ったエピソードなどが語られました。自然界でカモと共存してきたインフルエンザウイルスは、そのままの状態ではヒトに感染することはありませんが、家畜のアヒルやブタのレセプターと結合することによって変異し、ヒトにうつるウイルスに変化します。私たちが報道などで毎年耳にする「インフルエンザ」という言葉が、地球規模で関係しているということが良く理解出来る興味深い話となりました。



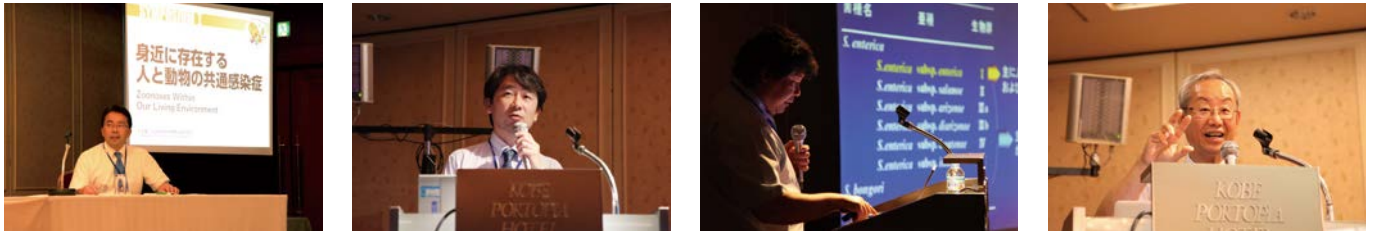
▲ インフルエンザが変異する様子

【シンポジウムⅠ／Ⅱ／Ⅲ 開催】

初日の午後からは会場を移動し、「和楽」「生田」「北野」の3つの会場に分かれて、同時進行でシンポジウムが開催されます。各シンポジウムの内容は、それぞれのシンポジウムの座長に一任されており、現在、その分野で一番相応しいと思われる演者が講演を行ったり、パネルディスカッションで意見交換をするといった方法で構成されています。

シンポジウムⅠ、Ⅱ、Ⅲでは、「人と動物の共通感染症」「人と動物とのふれあい活動（CAPP）」「暴力の連鎖」という内容が取り上げられていましたが、いずれも、私たち人間との関わりに深く結びついているテーマです。

シンポジウムⅠの様子



シンポジウムⅡの様子



シンポジウムⅢの様子



【ポスターセッション】

この第3回で初めての試みとなる、大学院生によるポスターセッションですが、国内外からの応募で、13組のチームが選ばれました。人と動物との関わりに関するテーマのポスターを掲示し、基調講演やシンポジウムの合間の時間に、演者や来場者の皆様に自分の研究をアピールする場となります。この国際会議では、普段直接お目にかかることができない様々な分野の専門家が集まるので、参加した学生にとっても、より多角的な視野を得ることができる貴重な場となったはずです。



【レセプション】

初日の会議終了後、出演および主催者によるレセプションが開催されました。このレセプションには、会場に会場に来てくださった一般参加者の皆様も参加可能ですので、昼間のシンポジウムを聞いて「この先生のお話をもっとゆっくり聞いてみたい!」という方にとっては、またとない機会となります。フォーマルな会議の場とは別に、こうした場所で人と人の縁が繋がっていくことこそ、ICAC KOBEの魅力なのかもしれません。

開会のご挨拶は、主催者である公益社団法人日本獣医師会副会長・近藤信雄氏、そして乾杯のご発声は、アサヒビール株式会社 元社長・福地茂雄氏にお願いいたしました。近藤氏からは、ICAC KOBE開催にご尽力くださった皆様への感謝の言葉と共に、ご自身の阪神・淡路大震災での体験と日本獣医師会としての当時の支援状況が語られ、福地氏からは主催団体である公益社団法人Knotsの「結び目」としての役割について、身の引き締まるメッセージを頂きました。

ポートピアホテルの料理に舌鼓を打ちつつ、和やかな雰囲気の中で、海外から来日して下さったトーマス E. カタンザーロ氏、フィル・アーコー氏、アンドリュース D. デルシエール氏、木下美也子氏が紹介されました。そして、ポスターセッションに参加して下さった学生の皆様が紹介され、「ヒルズ・スチューデント・サポート」として彼らの旅費の一部をご支援くださった、日本ヒルズ・コルゲート社社長・ゴードン・ディメシッチ氏より激励の挨拶を頂きました。また、この会議の開催を影で支えているボランティアメンバーと事務局スタッフが紹介され、恒例のソプラノ・隅田あゆみ氏とピアノ・西坂優子氏によるアリア斉唱で会場に花を添えました。

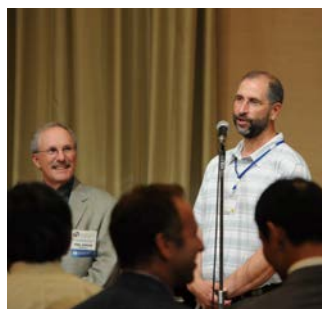
いつまでも話は尽きず名残惜しい夜となりましたが、中締めと共に初日のプログラムは終了となりました。



▲ 近藤信雄氏



▲ 福地茂雄氏



▲ 海外から来日して下さった演者の皆様



▲ ゴードン・ディメシッチ氏



▲ ポスターセッションに参加して下さった学生の皆さん



▲ ポートピアホテルの料理



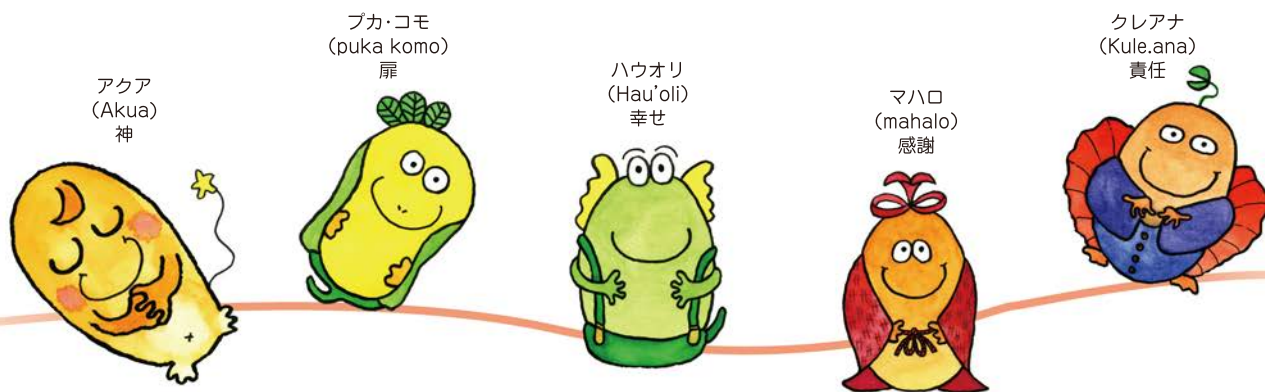
▲ ソプラノ・隅田あゆみ氏と
ピアノ・西坂優子氏



▲ 喜田先生とKnotsアドバイザー
ボードメンバー、ICAC KOBE事務局
スタッフで記念撮影

● ICAC KOBE キャラクターのご紹介

「アクア (神)」と「プカコモ (扉)」ハワイ語で二人で「神の扉 (神戸)」という意味です。私達はアニマルケアのキーワードを表現しています。生き物本来の在り方、「ハウオリ (幸せ)」、お互いの存在への「マハロ (感謝)」、そしてこの会議のテーマ「クレアナ (責任)」です。



【シンポジウムⅣ／Ⅴ／Ⅵ 開催】

2日目の始まったシンポジウムでは、前日の様子が地元・神戸新聞に掲載されたこともあって、予備の椅子を会場の通路に配置しなければいけないほどの来場者があり、人と動物の関わりについて市民の関心が高まっていることを伺い知ることができました。10時から13時まで、3時間にも及ぶシンポジウムですが、いずれの会場でも参加者が熱心にメモを取り、質問なども多数飛び交う議論が成されていました。

シンポジウムⅣ、Ⅴ、Ⅵでは、「飼い主を支えるための社会のシステム」「北極圏の環境異変」そして「畜産現場における野生動物の被害」についてが取り上げられました。

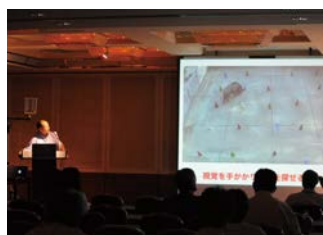
シンポジウムⅣの様子



シンポジウムⅤの様子



シンポジウムⅥの様子



【シンポジウムⅦ／Ⅷ／Ⅸ 開催】

午後からのシンポジウムでは、「高度動物医療と終末期動物医療」「食の安全と動物福祉」、そして「いのちの教育を伝える試み」について議論が成されました。参加者の中からは、「終末期動物医療（安楽死を含む）」というテーマに特化した話を聞くことができる機会はこれまでになかった」という意見を耳にしました。今後、益々こうした専門的な分野の知識が、一般市民に求められる時代になってきたのではないのでしょうか。そして、動物に対する福祉という考え方が、少しずつ浸透し始めていると言えるのかもしれません。

シンポジウムⅦの様子



シンポジウムⅧの様子



シンポジウムⅨの様子



【閉会式】

2日間にわたって白熱した議論が繰り広げられたICAC KOBE 2014のプログラムが、全て終了しました。会議の開催に多大なご尽力をくださったアドバイザーの皆様を代表して、植村興氏から閉会のご挨拶を頂きました。「全ての命を幸せにする事の難しさは、1個20円の卵が60円になるという現実的な辛く難しい壁があるが、我々はそれに立ち向かうためにここに集まっている」という心強いお言葉を頂きました。

そして、アドバイザーの審査によってポスターセッションに参加してくれた学生の中から3組のアワードが表彰され、賞状と副賞が授与されました。将来、彼らの中からICAC KOBEで研究発表をしてくれる専門家が出てくれることを、心から楽しみにしています。

植村氏の「終わりは次の始まり」という言葉通り、Knots理事長の富永氏から、来年7月に開催が決定したICAC KOBE 2015阪神・淡路大震災20年記念大会開催の告知が行われました。ICAC KOBE発足の切っ掛けとなったこの震災から20年。我々は未曾有の大惨事から一体何を学び、どんな課題が残されているのでしょうか。この2015年大会で、私たちに課せられた責任がより明確になることでしょう。



▲ 植村 興氏



▲ 閉会式風景



▲ ポスターセッション・アワードの表彰



▲ ICAC KOBE 2015 大会の告知

第3回目となるICAC KOBE 2014が無事に終了しましたが、人と動物との関わりには多くの課題が残されています。そして、近い将来必ず起こると言われている南海トラフ巨大地震などの大規模災害に対しても、我々は真剣に向き合わなければならない時代に生きており、すでに多くの自治体でペットとの同行避難や緊急時の対策などの準備が行われています。私たち人間は、こうした不安な時代の中にいるからこそ、逆に見えてくる人と人の絆、人と動物の絆の大切さを知ることができました。そして人間には、困難を克服し、それを乗り越える力があると私たちは信じています。

このICAC KOBEからの発信が、少しでも「人と動物の未来」を明るく豊かにする指針となり、共に生きる勇気を与える切っ掛けとなればこれ以上の喜びはありません。2015大会の神戸の会場で、また皆様にお目にかかれるのを心より楽しみにしております。



▲ ポスターセッション・アワード表彰状

● アワード受賞者一覧

ゴラム・アバスさん(金沢大学)
「バングラデシュにおける集団狂犬病予防接種」

西村俊哉さん(大阪府立大学)
「イヌ iPS 細胞由来血小板の獣医療および人医療への応用」

金城綾二さん(大阪府立大学)
「猫は人間の最高の友達 -猫iPS細胞の生産」

ご寄付頂いた皆様 (順不同)

- ネスレ日本株式会社 ネスレ ペュリナ ペットケア 様
- 日本ヒルズ・コルゲート株式会社 様
- マースジャパンリミテッド 様
- 財団法人 中内カコンベンション振興財団 様
- ロイヤルカナン 様
- DSファーマアニマルヘルス株式会社 様
- アサヒグループホールディングス株式会社 様
- アメリカペットフード協会 様
- 六甲山カンツリーハウス 様

ご協力ありがとうございました。



- 杉村 肇 様
- 柴内 裕子 様
- 小林 美和子 様
- 小柳 マミ 様
- 小柳 郁子 様
- 太田 芳和 様
- 川上 貴洋 様
- 片桐 紀生 様
- 金子 教子 様
- 大城 勝 様
- 田部 雅彦 様
- 佐久間 順子 様
- 有働 武文 様
- 寺田 淳子 様

- 飯田 良枝 様
- 須藤 修方 様
- 佐野 文子 様
- 玉井 公宏 様
- 原田動物病院 様
- 金田 京子 様
- 清水ペットクリニック 様
- 渡 昭博 様
- 太田 成江 様
- 定 裕美 様
- 湯木 麻里 様
- 植村 興 様
- 藤井 政彦 様
- 武藤 具弘 様

- 竹内 浩成 様
- 広谷 昌久 様
- 奥田 喜一 様
- 木下 久一 様
- 高光 仁芳 様
- 佐藤 正勝 様
- 今田 博之 様
- 山崎 惠子 様
- 内山 雅弘 様
- 友久 健二 様
- 小寺 澄枝 様
- 嶋野 武志 様
- 新井 智 様
- 江口 祐輔 様

- 上田 弘則 様
- 藤井 敬子 様
- 細井戸 大成 様
- 越村 義雄 様



広報・制作物

【2012 年作成】

○ ICAC KOBE 2014 開催決定チラシ

配布場所 動物感謝デー 2012 ほか
配布部数 700 部

【2013 年作成】

○ FAVA (アジア獣医師会連合) 大会

開催地 台湾
実施時期 2013 年 1 月
専用英文チラシ 200 部
代表者会議資料 50 部



○ AVMA (全米獣医師会) 150周年記念大会 および IAHAIO 2013 用パンフレット

開催場所 シカゴ
実施時期 2013 年 7 月
専用英文チラシ 1,000 部



○ 日本語パンフレット 2013 夏 & ご支援のお願い

印刷部数 500 部
インターペット(幕張メッセにて2013年8月開催)などで配布



○ 日本語パンフレット 2013 秋

印刷部数 1,000 部
日本獣医師会 および りぶ・らぶ・あにまるずフェスティバル
2013、六甲山カンツリーハウス他で配布

【2014 年作成】

○ 日本語パンフレット

印刷部数 3,400 部
 (シンポジウム内容などを随時更新しながら、400~1,500枚を作成)
 支援依頼等に活用

○ 英語パンフレット (演者掲載版)

印刷部数 200 部
 Asia For Animals Conference (Singapore) にて配布



○ Poster remainder (英文文書)

IAHAIO 会員宛に、副会長オームロード先生よりメール配信
 RSPCA インターナショナルのポール・リトルフェア先生に送付
 AFA Conference 関係者にメール送付

○ ICAC KOBE 2014 パンフレット

制作部数 40,000 部
 ご支援のお願いと支援金振込用紙を同封して、関係先へ発送
 ※ 発送作業：B 型就労継続支援事業所「Patch」



公益社団法人日本獣医師会
 ネスレ日本株式会社 ネスレ ピュリナ ペットケア
 日本ヒルズ・コルゲート株式会社
 DS ファーマアニマルヘルス株式会社
 アメリカ・ペットフード協会
 六甲山カンツリーハウス
 動物との共生を考える連絡会
 公益社団法人日本動物病院協会 (JAHA)
 公益社団法人日本動物福祉協会
 日本野生動物医学会
 応用動物行動学会
 日本クマネットワーク
 一般社団法人ペットフード協会
 帯広畜産大学獣医学ユニット
 岩手大学農学部共同獣医学科
 東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻
 東京農工大学農学部共同獣医学科
 岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科
 鳥取大学農学部共同獣医学科
 山口大学共同獣医学部獣医学科
 宮崎大学農学部獣医学科
 鹿児島大学共同獣医学部獣医学科
 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科獣医学専攻
 酪農学園大学獣医学群 北里大学獣医学部獣医学科

日本大学生物資源科学部獣医学科
 麻布大学獣医学部
 帝京科学大学アニマルサイエンス学科
 長崎大学熱帯医学研究所
 日本衛生動物学会
 NPO 法人野生動物救護獣医師協会
 兵庫県動物愛護センター
 アニマテック・オオシマ
 優良家庭犬普及協会
 日本動物病院会
 ちよだニャンとなる会
 一般社団法人日本動物看護職協会
 ペットとの共生推進協議会
 一般社団法人ジャパンケネルクラブ
 日本獣医学生協会 (JAVS) 大阪府立大学
 日本獣医学生協会 (JAVS) 麻布大学
 日本獣医学生協会 (JAVS) 東京大学
 日本獣医学生協会 (JAVS) 日本大学
 日本獣医学生協会 (JAVS) 東京農工大学
 日本獣医学生協会 (JAVS) 日本獣医生命科学大学
 赤坂動物病院
 兵庫県健康福祉部生活消費局
 神戸市
 株式会社アテナ フルフィルメント事業部 (日本獣医師会)

○ ICAC KOBE 2014 駅貼りポスター



◆JR 西日本



▲元町駅

▲神戸駅

◆神戸新交通 (主要駅に掲示)



▲ポータルライナー 三宮駅

▲六甲ライナー 魚崎駅

○ ICAC KOBE 2014 ポスター(ポスターセッション募集入)

制作部数 900部

各会議関係先の他、大学等にも掲示依頼

● 主なポスター配布先

(順不同)

日本寄生虫学会／長崎大学熱帯医学研究所／日本熱帯医学会／日本衛生動物学会／NPO 法人野生動物救護獣医師協会／公益社団法人日本動物園水族館協会／兵庫県動物愛護センター／ニホンジカ有効活用研究会／アニマテックオオシマ／優良家庭犬普及協会／一般社団法人日本ペット用品工業会／一般社団法人エゾシカ協会／日本動物病院会／一般社団法人日本 SPF 豚協会／緊急災害時動物救援本部／ちよだニャンとなる会／動物との共生を考える連絡会／日本クマネットワーク／一般社団法人日本障害者乗馬協会／ヒトと動物の関係学会／公益社団法人日本獣医学会／一般社団法人日本動物看護職協会／ペットとの共生推進協議会／一般社団法人ジャパンケネルクラブ／日本獣医師会／一般社団法人兵庫県獣医師会／公益社団法人神戸市獣医師会

人と動物の共通感染症研究会／公益社団法人日本動物病院協会／公益社団法人日本動物福祉協会／動物との共生を考える連絡会／日本野生動物医学会／社団法人日本獣医師会／応用動物行動学会／奈良県うだ・アニマルパーク振興室／HCJ (ヒューメインセンタージャパン) 事業／一般社団法人ペットフード協会／ネスレ日本株式会社 ネスレペチュリナペットケア／日本ヒルズコルゲート株式会社／ロイヤルカナンジャパン／マース ジャパン リミテッド／DS ファーマアニマルヘルス株式会社／アメリカ・ペットフード協会／六甲山カンツリーハウス／農林水産省／文部科学省／環境省／厚生労働省／兵庫県／神戸市／兵庫県教育委員会／神戸市教育委員会／神戸市動物愛護協会／公益社団法人日本医師会／一般社団法人兵庫県医師会／一般社団法人神戸市医師会／公益財団法人日本動物愛護協会／公益社団法人日本愛玩動物協会／一般財団法人 J-HANBS

北海道大学大学院獣医学研究科／帯広畜産大学獣医学課程／岩手大学農学部獣医学課程／東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻／東京農工大学農学部共同獣医学科／岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科／鳥取大学農学部共同獣医学科／山口大学共同獣医学部獣医学科／宮崎大学農学部獣医学科／鹿児島大学共同獣医学部獣医学科／大阪府立大学大学院生命環境科学研究科獣医学専攻／酪農学園大学獣医学群／北里大学獣医学部獣医学科／日本大学生物資源科学部獣医学科／麻布大学獣医学部／日本獣医生命科学大学獣医学部／帝京科学大学アニマルサイエンス学科

愛媛大学農学部／香川大学農学部／九州大学農学部／京都産業大学総合生命科学研究科／近畿大学農学部／名古屋大学農学部・生命農学研究科／ヤマザキ学園大学動物看護学部／愛媛大学教育学部／茨城大学／茨城大学農学部／岡山大学農学部／岡山大学教育学部／岡山大学医歯薬学総合研究科／岩手医科大学医学部／岐阜大学医学部／宮城教育大学教育学部／京都府立大学生命環境科学研究科／九州大学医学部／広島大学大学院生物圏科学研究科／広島大学総合科学部／広島大学教育学部／山形大学農学部／四條畷学園大学リハビリテーション学部／滋賀医科大学／自治医科大学／鹿児島大学医学部／秋田大学／昭和女子大学／神戸国際大学リハビリテーション学部／神戸女学院大学人間科学部／神戸女子大学健康福祉学部／神戸松蔭女子学院大学人間科学部／神戸大学医学部／青山学院大学社会情報学部／青山学院大学教育人間科学部教育学科／静岡大学／大阪市立大学生活科学部／大手前大学現代社会学部／大分大学教育福祉科学部／長崎大学／帝京科学大学／帝京科学大学医療科学部／島根大学医学部／東海大学医学部／東京大学教育学部／東京農工大学／奈良県立医科大学医学部／日本女子大学／福岡大学／法政大学生命科学部／法政大学社会学部／法政大学キャリアデザイン学部／防衛医科大学校医学教育部／北海道大学大学院医学研究科／琉球大学／佛教大学

○ ICAC KOBE 2014 当日用看板・ポスター



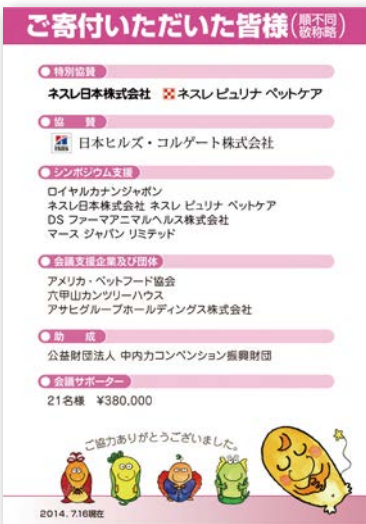
▲ 会場案内看板



▲ ポスターセッションタイトル看板



▲ 会場入口 立て看板



▲ サンキューポスター (寄付一覧)

○ ICAC KOBE 2014 抄録

制作部数：1,200 部
仕 様：A4 版・フルカラー・110 ページ

《主な配布先》

- ・ ICAC KOBE 2014 にご参加くださった皆様
- ・ ご協賛・ご後援・ご協力くださった企業及び個人の皆様
- ・ その他 Knots の事業を支えてくださる皆様



プレスリリース (順不同)

テレビ・ラジオ・新聞など

テレビ大阪株式会社 ジェイコム	朝日新聞社 大阪本社 毎日新聞社	神戸新聞社 編集局 「青空主義」編集室 産経新聞社
株式会社 バイコムコミュニケーションズ	毎日新聞社 大阪本社	産経新聞社 大阪本社
株式会社 映像企画(よみうりテレビズームイン)	毎日新聞社 社会部	日本経済新聞社 大阪本社
株式会社 フルタイム	毎日新聞社 神戸支局	日本経済新聞社 神戸支社
大阪放送株式会社(ラジオ大阪)	毎日新聞社 阪神支局	日本農業新聞 大阪支所
ラジオ関西(AM KOBE)	読売新聞社 大阪本社	時事通信社 大阪支社
FM 802	読売新聞社 大阪本社 文化・生活部	時事通信社 神戸総局
KISS-FM	神戸新聞社	共同通信社 大阪支社 社会部
エフエム大阪(FM OSAKA)	神戸新聞社 編集局 社会部	共同通信社 神戸支局
西宮コミュニティ放送株式会社(さくらFM)	読売新聞社 神戸総局	

雑誌・業界紙・情報誌・タウン誌など

ドッグスポーツジャーナル	株式会社 プロメディック	TOKK
愛犬の友	関西版 びあ	コベルコビジネスサポート(株)PRサービス部内
Wan	SAVVY	株式会社てくてく
RETRIEVER	Hanako	(有)ともも
いぬのきもち	1週間	(有)ぶんぶん
trim(トリム)	関西Walker	Dジャーナル(団地ジャーナル)
獣医畜産新報	朝日ファミリーニュース	Meets Regional
ペット産業情報新聞 ペット&Life	朝日グリーンファミリー	月刊 KOBEゲー
ペット経営	朝日新聞暮らしの情報	月刊 センター
PEPPY	読売ファミリー	月刊 たうんらいふ
愛犬チャンプ	リビング東神戸	ピバ! ニュータウン
JPRペット産業・市場ニュース	シティリビング	編集ご担当者様
woof woof(うふうふ)	シティライフ	神戸新交通株式会社
ペットニュース	日経リヴァイヴ	
Japan Pet Press	暮らしの新聞	
(有)インターフェイス	g-time	

学校関係

滋賀県立守山中学・高等学校	同志社国際高等学校	八幡商業高等学校
京都府立嵯峨野高等学校	大阪府立豊中高等学校	水口高等学校
京都市立堀川高等学校	大阪府立四條畷高等学校	京都市立日吉ヶ丘高等学校
立命館宇治中学校・高等学校	大阪府立能勢高等学校	園部高等学校
立命館高等学校	大阪府立千里高等学校	南丹高等学校
大阪府立三国丘高等学校	関西創価高等学校	高取国際高等学校
関西大学高等部	大阪教育大学付属高等学校平野校舎	奈良情報商業高等学校
兵庫県立姫路西高等学校	兵庫県立兵庫高等学校	奈良朱雀高等学校
神戸市立葺合高等学校	兵庫県立柏原高等学校	法隆寺国際高等学校
関西学院高等部	奈良市立一条高等学校	串本古座高等学校
奈良県立畝傍高等学校	和歌山県立田辺高等学校	星林高等学校
西大和学園中学校高等学校	北大津高等学校	那賀高等学校
京都府立鳥羽高等学校	国際情報高等学校	
京都市西京高等学校	長浜北星高等学校	

ICAC2009・2012 及び ICAC2014の記録集は下記にて順次公開中です。
<http://www.knots.or.jp/corporation/>

告知・掲載してくださった皆様 (順不同)

◆読売新聞(7月17日 地域版)

**動物との共生
考える国際会議**
神戸で19、20日

人間と動物の共生などを考える「第3回神戸アニマル」

ルケア国際会議」が19、20日の両日、神戸市中央区の神戸ポートピアホテルで開かれる。

会議は、動物の生息環境を守るための情報を共有

し、議論を深めるのが狙いで、公益社団法人の日本獣医師会と「Knots」が主催する。

19日午前10時半からの開会式に続き、喜田宏・北海道大名誉教授が「インフルエ

ンザウイルスの生態」と題して基調講演。その後、感

入場無料。参加者は登録

午後1〜5時へ。

◆神戸新聞(7月20日 地域版)

神戸で国際会議 関係者ら300人参加

動物と触れ合う 効果など考える

人間と動物の関わり方を考える「神戸アニマル」が19日、神戸市中央区の神戸ポートピアホテルで開幕した。初日は国内外の学生や、医療、行政関係者ら約300人が参加し、講演や討議を通して感染症や動物の療法効果について理解を深めた。20日

日本獣医師会が主催。阪神・淡路大震災の被災地・神戸から動物の「命」への責任について考えようと2009年に始まり、3回目。

この日はまず、北海道大学の喜田宏名誉教授が感染症を題材に講演。新型インフルエ

ザの対策をめぐり、特別措置法が施行された流れを「混乱を招いた」と指摘し、「従来の季節性インフルの方が(重症化する)高病原性で、対策改善が必要だ」と説いた。

続いて三つのシンポジウムが同時進行であり、動物と触れ合うことによる医療、教育的効果などについて専門家が意見交換した。20日は午前10時〜午後5時、畜産や、動物の医療、福祉などをテーマにした六つのシンポジウム(神戸市や

インフルエanzaをテーマにした喜田宏名誉教授の講演で幕を閉じた会議。神戸市中央区港島中町6

同会議は、人間と動物の共生をテーマにイベントなどを手掛ける団体「Knots」(フツ)が主催する。

● ホームページに掲載

農林水産省	www.maff.go.jp/
公益社団法人 日本獣医師会	nichiju.lin.gr.jp/
一般社団法人 兵庫県獣医師会	hyogo-vet-assoc.jp/
公益社団法人 三重県獣医師会	mie-vet.com/
公益社団法人 鳥取県獣医師会	tori-vet.jp/
公益社団法人 日本動物福祉協会(JAWS)	jaws.or.jp/
公益社団法人 日本動物病院協会(JAHA)	http://www.jaha.or.jp/
一般社団法人 家庭動物愛護協会	t-kateidoubutu.jp
一般社団法人 日本ペットフード協会	petfood.or.jp
一般社団法人 エゾシカ協会	yezodeer.com/
応用動物行動学会	jsaab.org/
公益社団法人 日本獣医学会	jsvetsci.jp/
動物との共生を考える連絡会	www.dokyoren.com/
日本寄生虫学会	jsp.tm.nagasaki-u.ac.jp/
久山獣医科病院	kuyama-vet.com/
Animal Fanciers' Club	www.afc-dog.jp/
AMIS 動物薬情報ドットコム	douyakujyoho.com
dogoo.com 犬の総合情報サイト	dogoo.com
神戸のコンベンション	kobe-convention.jp/
ドッグスポーツジャーナル	dogsports.co.jp
日本フリスビードッグ協会	frisbeedog.co.jp/
株式会社 緑書房	pet-honpo.com/
大竹英洋フォトグラフィー	hopnews.exblog.jp/
wanko365	wanko365.net/
Wanlog!	wanlog.net/

● ブログ・SNSなど

Second cat life	ameblo.jp/secondcatlife/
ウルトラ動物病院	www.facebook.com/ultravet1
はなれてひなたぼっこ	maaru.ikora.tv/
若井たつこ活動日記	wakai-wakai.cocolog-nifty.com/blog/
鳥の広場	torikyou2013.blog.fc2.com/
帝京科学大学	www.ntu.ac.jp/gakubu/seimei/seimei/
Made for Each Other	falkor.jinendo.org/article/101975327.html

● 新聞・テレビなどのホームページ

神戸新聞NEXT(電子版)	kobe-np.co.jp/
いぬてれび(動画配信サイト)	inutv.net/

決算報告

ICAC KOBE 2014 決算報告

総費用 24,403,047 円

<収入> 24,403,047 円

(内訳)

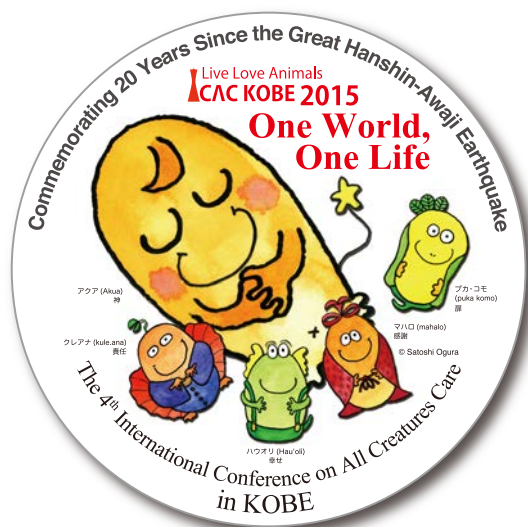
助成金	2,000,000
会議支援金	5,000,000
シンポジウム指定支援金	4,500,000
サポーター寄附金(一般寄附金)	866,469
レセプション寄附	105,000
自己資金	11,931,578

<支出> 24,403,047 円

(内訳)

会場費	5,701,544
同時通訳費	1,397,115
抄録翻訳費	859,620
印刷製本費(抄録/パンフレット/ポスター類)	1,783,404
記録集制作費(翻訳料含む)	2,435,500
国内座長演者 旅費交通費	1,787,720
座長演者 謝礼	590,000
海外演者 旅費交通費	1,041,580
広報費(ウェブ制作費含む)	924,094
事務局旅費交通費	610,435
事務局人件費	7,000,000
通信費	116,803
消耗品費	151,546
会議費	3,686

開催
決定



Live Love Animals ICAC KOBE 2015

2015年7月19日・20日

阪神・淡路大震災から20年…。

ICAC KOBE は、

「第4回 神戸 全ての生き物のケアを考える国際会議 2015」

— 阪神・淡路大震災 20年 記念大会 One World, One Life —

The 4th International Conference on All Creatures Care in KOBE 2015

— Commemorating 20 Years Since the Great Hanshin-Awaji Earthquake - One World, One Life

として、更に進化します。

<http://knots.or.jp/>



ICAC KOBE 事務局

公益社団法人 Knots

〒658-0047 兵庫県神戸市東灘区御影3丁目2番11-20
TEL 078-843-8970 (月～金曜日 9:00～17:00)
FAX 050-3730-0738 (国内専用)